

鎌倉の「第九」

平成16年度 鎌倉市民「第九」コンサート

2004年12月19日(日) 15時開演 鎌倉芸術館大ホール

不屈の精神を貫いたベートーヴェンのように
市民の力が大きな感動を呼ぶ…



鎌倉芸術館
KAMAKURA PERFORMING ARTS CENTER

鎌倉市民「第九」コンサート

リヒャルト・ヴァーグナー：歌劇「タンホイザー」序曲

Richard Wagner: "Tannhäuser" Ouvertüre

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲 第9番 二短調 Op.125《合唱》

Ludwig van Beethoven: Symphonie Nr. 9 d-moll Op. 125

第Ⅰ楽章 アレグロ・マ・ノン・トッポ・ウン・ボーコ・マエストロ
(快速に、しかし速すぎないように、やや狂戯に)ニ短調 4分の2拍子

第Ⅱ楽章 モルト・ヴィヴァーチュ
(きわめて速く、いききと)ニ短調 4分の3拍子

第Ⅲ楽章 アダージョ・モルト・エ・カンターピレ
(ゆっくりと、そしてさわめて歌うように)変長調 4分の4拍子

第Ⅳ楽章 プレスト
(きわめて速く)ニ短調 4分の3拍子



小泉ひろし [指揮]

桐朋学園大学卒業。指揮を森薗秀雄、オーボエを鈴木清三各氏に師事。卒業に際し音樂賞を受賞。卒業と同時に東京交響楽團副指揮者に就任する。第一回音楽指揮者コンクール第三位入賞。1970年ウイン国立音樂大学入学。指揮をハンス・ストロフスキ、オペラをカール・エッティハ、パック音楽をヨゼフ・メルティンの諸氏に師事。71年、72年にオーストリアのオシアッハ国際音樂祭でラーナグフルト国立管弦樂團を指揮。74年にはウィーン・トキンキュンストラ管弦樂團を指揮し好評を得る。卒業に際し、最後秀賞を受賞。94年10月にはミキシコに於ける日本音樂祭に招待され、ミキシコ国立交響樂團を指揮し絶賛を博す。大阪シンフォニーの指揮者を創設期から10年間務め、そのレヴェル・アップに大きく貢献するほか、とくに宗教音樂のジャンルにおいては優れた解釈による格調高い演奏が高く評価されている。現在は、演奏活動の傍ら、東京芸術大学、桐朋学園大学、フェリス女学院大学の講師として、後進の指導に当たり、多くの優秀な人材を世に送り出している。

鎌倉市民「第九」コンサート合唱団 [合唱]

今年、公募で集まった市民合唱団。9月より13回の練習を重ねて本日を迎える。

小泉ひろし [合唱指揮] 森田由子 [合唱練習ピアノ伴奏]



亀田真由美 [ソプラノ]

東京芸術大学別科修了後、洗足学園大学声楽科卒業。見島百代、中村浩子、奥村淑子、中山律一の各氏に師事。個性的なコロナトーラ・ソプラノとして「魔笛」の夜の女王役でデビュー以来、二期会公演をはじめ多くの公演に出演している。「後宮よりの逃走」のコラスソング、「ボートの王ミトリダーテ」のアスカージャ、「劇場支配人のヘルツ夫人」、「シンデレラ」(マヌー)の妖精の女王等のコロナトーラの難役に加え、「ドン・ジョヴァンニ」「オルフェオとエウリディシェ」「ヘンゼルとグレーテル」「金閣寺」(日本初演)等に出演している。1988年より海外都巿10ヶ国でリサイタルやコンサートに出演。また「第九」や宗教曲等の独唱の他、リサイタルも回を重ね、日本歌曲の分野でも意欲的に活動している。現在、二期会会員、洗足学園大学講師。



辻宥子 [アルト]

国立音樂大学卒業、同専攻科修了。エリザベス・トッド、佐々木成子、武岡鶴代、西内静に師事。1969年、第4回民音コンクール第三位入賞。同年次のイーンに留学。ウイン国立音樂大学にてE・ベルバ、A・コロ、W・ショタイブルク教授に師事。1970年、ミュンヘン音樂コンクール第三位。1971年、バルセロナのマリア・カラス・コンクール第二位、オランダのヘルトゲボッシュ・コンクール第一位に入賞。国際フローヴァルコンクール第二位入賞。その後、各地でババの「ロ短調ミサ」、「ヨハネ受難曲」、ロシニの「スクーミ・マーテル」、F・マルゲの「リスランヒルデ」などを歌うほか、RCAでの「カストルとボルク」、ヘンデルの「ユダスマカベウス」をレコード化し、1975年春に帰国。コンサートではマーラーの「交響曲第9番」、バッハの「マタイ受難曲」、ベートーベンの「交響曲第9番」、ヘンデルの「メサイア」、エルガーの「キングダム」などをN響、東洋、東響、京都、札幌などに協演。オペラでは、「マクベス」のマクベス夫人をはじめ、「ヘンゼルとグレーテル」の魔女、「マイスター・ジンジャー」のマッグルーナ、「ファルスタッフ」のクイックリー、「ジークフリート」のブリュンヒルデ、「ワルキューレ」のブリュンヒルデ、「カバリエルアルスティカーナ」サン・トゥッカを見事に歌い、その音楽性が高い評価を得る。二期会会員。フェリス女学院大学音楽学部教授。



安保克則 [テノール]

山形大学教育学部総合教育課程音楽コース卒業、東京藝術大学院声楽専攻科修了。現在同大学院博士後期課程に在学。声楽を林康子、ジョヴァンニ・ニコラ・ビリウチ、高橋啓三、藤野祐一、牧野美紀子、千葉いく子の各氏に師事。これまでにオペラ作品では、「カルメン」(ゼー)のドン・ホセ役、「サランカンカの人たち」(ジューベルト)のトルメス伯爵(演奏会形式)、「ドン・ジョヴァンニ」(モーツアルト)のドン・オッターヴィオ役、「フーガト」(モーツアルト)のドン・パトリック役に出演。また宗教作品では、「ハ長調ミサ」(戴冠式ミサ) (モーツアルト)、「メサイア」(ヘンデル)、「ト・長調ミサ」(シューベルト)、「エリヤ」(メンデルスゾーン) (抜擢)、「スター・ハイマー」(ロッシーニ)、「第九」(ベートーベン)のソリストとして出演した。日本声楽家協会研究員、日本声楽アカデミー会員。



今尾滋 [バリトン]

1966年東京生まれ。早稲田大学法學部卒業後、東京芸術大学声楽科入学。同大学院博士課程を修了し、博士号(音楽)を取得。京都オペラコンクール3位、ブタベスト国際声楽コンクールのファルスタッフ部門で2位となり、副賞としてウェーノーラのテアトロ・フィラルモニコにおけるファルスタッフ公演に参加し、レナート・ブルンのアンダースタディとして研鑽をつむ。『フィオラの結婚』、『魔笛』、『ボエーム』、『ラヴェリータ』、『リゴレット』等の多くのオペラに出演する他、「第九」、「カルミ・ブーラ」、「クリスマス・オカリナ」などの宗教曲のソリストもつとめる。平成9年度文化庁在外研修員としてイタリアに留学。98年にはフィナーレ・エミーリアのテアトロ・ソチアーレで「ドン・パスカル」のマラタス役を歌い、好評を博した。二期会会員。イタリア・モンテカルロ・オペラアカデミー、メンバー。ホールオペラアカデミー、メンバー。日本ロシニーニ協会会員。東京藝術大学非常勤講師。日本声楽アカデミー会員。著書(共著)に「2000CD アリアで聴くイタリアオペラ」(立風書房)がある。

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 Op.125<合唱>

Ludwig van Beethoven:Symphonie Nr.9 d-moll Op.125

鎌倉芸術館年末恒例の鎌倉市民「第九」コンサート公演にむけて、300名近くの仲間が集い、9月より十数回の練習を重ねてきました。

「ともに声を合わせ、心を合わせて」作り上げてきた合唱の成果を、今日こそ“鎌倉”で披露します。指揮・小泉ひろし、管弦楽・鎌倉交響楽団、ソリスト・亀田真由美、辻宥子、安保克則、今尾滋による「篤力」の世界をどうぞお楽しみください。

頌詩《歡喜に寄す》

ODE AN DIE FREUDE

原詩：フリードリヒ・フォン・シラー Friedrich von Schiller
対訳：喜多尾道冬

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen
und freuden vollere!

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmelsche, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehl
Weinend sich aus diesem Bund.

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprägt im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben
Und der Cherub steht vor Gott!

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen,
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! Über'm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnst du den Schöpfer, Weil
Such' ihn über'm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

ああ友よ、そんな調べではだめなのだ!
声を合わせてもっと楽しくうたおうではないか、
もっとよろこびにあふれる調べで!

よろこび、それは神から発する美しい火花、
楽園の遺産美しい娘
わたしたちは熱い感動の思いに突き動かされて、
気高いよろこびよ、おまえの國へ歩み入る!
おまえは世のしきたりがつめたく引き裂いたものを、
不思議な力でふたたびとけ合わせる。
おまえのやさしさいっぱいに懐かれると、
すべてのものは同胞となる。

心の通じ合える真友を得るという
むずかしい好みのかったものも、
気だてのやさしい妻をめることができたものも、
よろこびの気持ちを声に出来て合わせよ!
そうだ、この広い世のなかでたったひとりでも
心をわからち合える相手がいると言えるものも和すのだ!
だがそれさえできぬものは、よろこびの仲間から
ひと知れずみじめに去って行くがよい。

すべてのものは自然の胸にいたがれ、
その乳房からよろこびをいっぱいに飲んでいる。
端正ひいもと勇ましいもののみなすべて
ばらの香りに誘われて自然のふところへ入って行く
自然はわたしたちにちづけとぶどうと
死の試験をくりぬけた友を与えてくれた。
快楽などはうじ虫に投げ与えてしまつ、
知と正を司る天使が神のまえに姿をあらわす!

よろこびにあふれて、ちょうど満天の星々が
壮大な天の夜空を悠然とめぐるよう、
同胞よ、おまえたちも与えられた道を歩むのだ
よろこびに勇み、勝利の大道を歩む英雄のように。

たがいにいだき合うのだ、もろびとよ。
全世界のひとたちとくちづけをかわし合うのだ!
同胞よ!満天の星々のかなには
父なる神はかなはずやおわしますのだ。
そうすればおまえたちはひれ伏すか、もろびとよ。
この世のものたまよ、おまを創造した神がわかるか。
満天の星々のかなにて神を求めよ!
星々のかなにて神はかなはずやおわしますのだ。

鎌倉市民第九コンサート合唱団

鎌倉交響楽団

| | | | | | | |
|------------------|------------------|------------|--------|--------|--------|--------|
| 第1ヴァイオリン | 第2ヴァイオリン | ヴィオラ | バス | クラリネット | トランペット | 清水 小太郎 |
| 成子江士恵晶子子樹え子子子子子 | 成子江士恵晶子子樹え子子子子子 | 彦郎正哉子健均 | 彦子実潤 | 美知眞理 | 栄美枝子 | 勲子樹爽 |
| 俊智満孝文千民良茂み陽木順慶節潔 | 俊智満孝文千民良茂み陽木順慶節潔 | 定達晋陽 | 定達晋陽 | 紀健一祐 | 稔里勝仁 | 鼓匡 |
| 柳多藤西原本味井橋田谷重一 | 柳多藤西原本味井橋田谷重一 | 沢内藤島野辺 | 木山沢崎 | 吹倉原木 | 地水金久 | 葉納林辺 |
| 新石大大重白曾高靖徳富中中新芳馬 | 新石大大重白曾高靖徳富中中新芳馬 | 梅大佐福丸矢渡 | 鈴片前山 | 矢鹿三松 | 福清津森 | 秋加小渡 |
| 青宇遠川河樹五五音高堀田木谷代戸 | 青宇遠川河樹五五音高堀田木谷代戸 | 海島尾木田水川谷本上 | 山田竹根橋 | ホルン | トロンボーン | トロンボーン |
| 内篠笛佐澤清中日正水宮 | 内篠笛佐澤清中日正水宮 | 達良由一優洋寿 | 山菊會高 | 幸司子敬之希 | チューバ | 作志功子 |
| 田木井田野山藤重田崎 | 田木井田野山藤重田崎 | 野嵩本橋 | 桑山山中 | 敏賢朋和亜 | 川井賀孫 | さえ |
| 飯鈴中山中西佐兼藤尾 | 飯鈴中山中西佐兼藤尾 | オーボエ | オーボエ | 若一賢英 | 府桜有煤 | 田村城 |
| 田木井田野山藤重田崎 | 田木井田野山藤重田崎 | 男広樹紀朗子子夫農彩 | 幸司子敬之希 | 之純美彥 | 蓑太明今 | 後直信 |
| 飯鈴中山中西佐兼藤尾 | 飯鈴中山中西佐兼藤尾 | 達良由一優洋寿 | 宮白芳芥山福 | 田村城 | 蓑太明今 | 蓑太明今 |
| 田木井田野山藤重田崎 | 田木井田野山藤重田崎 | 野嵩本橋 | 宮白芳芥山福 | ホルン | ホルン | ホルン |
| 桑山山中 | 桑山山中 | オーボエ | 宮白芳芥山福 | 之純美彥 | バーカッショ | バーカッショ |
| | | オーボエ | 宮白芳芥山福 | 田村城 | 蓑太明今 | 蓑太明今 |